

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東京大学	整理番号	E01
プログラム名称	フォトンサイエンス・リーディング大学院		
プログラム責任者	武田 洋幸	プログラムコーディネーター	相原 博昭

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、多くの教育・研究実績をあげてきた理学系研究科（物理学、化学）と工学系研究科（物理工学）の組織を縦糸に、フォトンサイエンスという融合学理を横糸にして、分野を超えた俯瞰力と知を活用する力を養成するに相応しい優れた横断的学位プログラムが構築されている。その中で、プログラム担当者の強いリーダーシップ、指導担当教員と副指導教員の効率的連携、先端光科学関連企業による実習など産業界の持つ力の活用、海外派遣・インターンシップ、支援期間終了後のビジョンの早期策定等により、プログラム学生にかかる負担を最小に抑え、効率の良い教育が実現された結果、グローバルリーダーとして活躍できる優秀な人材が養成されており、高く評価できる。特に、産業界の持つ力を巧みにプログラムに取り入れた点や、毎年度2倍程度の競争率の中から優秀な学生を選抜し、厳しい学位審査体制を厳格に運用することで質保証を徹底している点も評価できる。プログラム学生の受入れが自大学出身者に偏っていることから、今後はより留学生等を受け入れ、多様性による教育のシナジー効果を高めることが期待される。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、プログラム学生の数々の受賞実績や、インターン先での高い評価など、修了者の独創力や俯瞰力といった能力は十分に向上できたと評価できる。学生自身も副指導教員制度が俯瞰力向上に有効であったと評価し、成長を実感している。修了者、プログラム学生ともに「後輩にも勧めたい」とアンケートで回答しており、本プログラム履修への高い満足度を反映したものと十分評価できる。学外関係者と交流する機会を通じて、多様なキャリアパスを選択する人材の育成が進みつつあり、非アカデミアへの就職率が3年間で23%（平成26年度修了者）から35%（平成28年度修了者）へと伸長したことは評価できる。今後、各界のリーダーとしての活躍が期待される。

事業の定着・発展については、本プログラムは東京大学大学院教育強化プランの一環として今後の定着と発展が決定され、平成30年度以降は東京大学として「フォトンサイエンス国際卓越大学院（仮称）」へ受け継がれることが既に周知されている。また、経済的支援を博士後期課程3年次修了まで継続することを早期に大学として保証し、教職員やプログラム学生のモチベーションを維持したことは特筆に値する。本プログラムは将来に向けた事業の継続性、発展性も含めて他のプログラムの模範となる当初の計画以上の取組であり、高く評価できる。